

The Jumonji Press

新座だより

No. 36

2011.10

Spotlight on Campus

サッカー熱戦レポート

第12回 女子ジュニアサッカー招待大会 「十文字カップ」 で競え!



12チームが日頃の練習の成果を競い合った。

特報 東日本大震災 女性ボランティア 息長く ～公開座談会「いま、わたしたちにできること」～

- 06▶ 式典レポート 震災から2カ月「卒業記念の式典」を挙行
- 08▶ 新着トピックス 「十文字学」冠講座 リアリズムの迫力
- 10▶ 体験レポート 2011夏インターンシップ奮闘記／保護者向け就職セミナー開催
- 11▶ 教育・研究最前線 山本茂教授(人間生活学部食物栄養学科)
- 12▶ 十文字ニュース 学生防犯リーダー／子ども大学にいざ etc.
- 16▶ こちら編集部 17▶ 平成22年度決算の概要 18▶ 公開講座&入試情報



3・11から2カ月
「卒業記念の式典」
(6月5日開催)

未来のなでしこ集結

「小学生の女の子」から日本の女子サッカーの発展は始まる——。十文字学園のトップとサッカー指導者がそんな確信を持ち続けて12年目となる。関東近県の女子小学生で編成されたサッカーチームが「十文字カップ」を競う「第12回十文字学園杯女子ジュニアサッカー招待大会」が、8月6日(土)、7日(日)に開催され、新座キャンパスの天然芝グラウンドは、なでしこジャパンのワールドカップ優勝さながらの熱気に包まれた。



手に汗握る好プレーが続出。

地元メディアも注目

開会式では、大会名誉会長の十文字一夫理事長はじめ大会役員が紹介され、横須賀薫学長(十文字学園女子大学)が主催者を代表して挨拶に立ち、参加12チームの選手を激励。草野一紀校長(十文字中学・高等学校)が昨年の優勝チームから優勝杯の返還を受けた。

今大会は、埼玉4、東京6、千葉2の合計12チームが参加。「過去の大会に参加した子どもの中には、その後もサッカーを続け、なでしこリーグでプレーしている女性もいます」と、大会運営にあたった武岡イネス恵美子教諭(十文字中学・高等学校)が話す通り、サッカーのレベルは大会を重ねるごとに上がり、試合内容も濃くなっている。

今大会を制したのは千葉フェニックス。東京の綾南フットボールクラブガールズを3-0で下し、堂々の連覇を成し遂げた。2日間の熱戦は、埼玉新聞、テレビ埼玉などが取材し、メディアからも注目を浴びた。大会を主催する十文字学園にとっては、子どもたちの女子サッカー普及への「井戸掘り役」として、今後のさらなる展開を模索する節目の大会となった。



十文字理事長が優勝カップを授与。



開会式で横須賀学長が挨拶。

在学生&OGが活躍!

国文OGが絵本を出版

本学短期大学部文学科国語国文専攻の卒業生・水田さとみさんが7月15日(金)に絵本『みみの水玉マジック』(文芸社)を出版した。絵は関口拓志氏。小学1年生のみみが、元気いっぱい魔法をかける楽しいお話だ。9月に文教堂書店、2月に紀伊國屋、4月に三省堂に1年間陳列する予定。水田さんは現在、中学校で特別支援学級の担任をしている。今後のますますのご活躍をお祈りしたい。



短大・表現文化大賞

短期大学部文学科は2012年度から「表現文化学科」にリニューアルする予定である。これを記念し、「表現文化大賞」が企画され、「跳ぶ」をテーマに作品を公募した。79点の応募作品があり、結果は優秀賞5名、佳作6名。7月26日(火)に学長室で表彰式が行われた。出席した優秀賞の児童幼児教育学科3年登坂由美子さんと食物栄養学科3年鈴木菜津子さんに横須賀薫学長から賞状と賞金が授与された。なお、「表現文化大賞」は来年度も開催予定。皆様のご応募をお待ちしている。



短期大学部が2012年4月にリニューアル! 「表現文化学科」が誕生

編集◆後◆記

東日本大震災を経験し、今、学生のボランティア活動に対する意識が高まっています。少しでも人の役に立ちたい。こうした思いから真剣に取り組む様子が見えがえします。

「新座だより」36号では、震災を振り返る公開座談会や今春スタートした資生堂冠講座、後期から始まる地元メディアの第一線で働く女性記者、制作担当者などのお話も聞ける講座に注目。女性の生き方について企業から学べるチャンスを、より多くの学生につかんでほしいと思います。(水野 遥:編集長)

座談会や今春スタートした資生堂冠講座、後期から始まる地元メディアの第一線で働く女性記者、制作担当者などのお話も聞ける講座に注目。女性の生き方について企業から学べるチャンスを、より多くの学生につかんでほしいと思います。(水野 遥:編集長)

*「新座だより」へのご意見・ご要望は、kikaku@jumonji-u.ac.jpまで。

新座だより第36号 2011年10月14日発行
発行人:岡本英之(企画室長)
編集長:水野 遥 監修:大西正行
編集総務:三野裕子 編集事務:竹田 梓
発行:十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部・十文字女子大附属幼稚園
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
Tel. 048-477-0555(代表)





東日本大震災 女性ボランティア 息長く

公開座談会 「いま、わたしたちにできること」

取材・文：大嶋理恵記者

公開座談会取材

学生記者の目

被災地の復興・復旧に 女性の気遣いを生かしたい



被災地の復旧・復興には長い時間をかけて取り組むことが大切だと、改めて気づかされた座談会だった。地震直後の被災者の心境や避難所での生活、故郷に対する想いを肌で感じ、被害の深刻さを痛感した。地震や津波に対するやり場のない怒り、生活に対する不安の矛先をどこに向ければいいのか。被災地の方々は必死に自分たちの現状と向き合い、前に進もうとしている。

ボランティア活動といっても、実際に何をすればいいのかわからなかったが、現地で活動された人の話を聞いて、力仕事だけが必要ではないことがよくわかった。特別に気を張らなくても、地域の方に寄り添い、小さなサポートを積み重ねることができる。こんなときこそ、女性ならではの気遣いや、たくましさ求められるのではないかと感じた。

震災に対する大学の迅速な対応にも驚いた。減免制度も早い段階で設けられた。本学では日頃から学生に対して手厚いサポートを行っている。そのおかげで、私たちは学業に専念できるのだと心から思った。(大嶋理恵記者)



上段左から河北新報社の岩瀬昭典氏、被災学生の海村智美さんと松崎沙織さん、中段左から横須賀薫学長、ボランティア活動に参加したトウケンテイさんと本学職員の前永里子さん。



震災直後の様子を映し出す取材映像に真剣な眼差しを向ける学生たち。座談会では会場からの感想も。

現地からの報告

映像で振り返った被災地の惨状

——東北に笑顔が戻る日に想いを馳せて

東日本大震災から5カ月が過ぎた8月1日(月)、河北新報社取締役東京支社長岩瀬昭典氏をお招きし、被災した本学の学生やボランティア活動に参加した学生を交え、現地からの報告会と座談会が新座キャンパスで行われた。被災地が真の復旧・復興を果たすまでには息の長い支援が必要だ。埼玉の地から何ができるのか、教職員や学生たちとともに考えた。

津波の猛威伝える被災者撮影の映像

会場となった9417教室は、被災した学生やボランティア活動に参加した学生を取り囲む仲間と教職員であふれていた。冒頭の現地報告ではまず、河北新報社グループが編集した大震災当初の映像が上映された。地震が起こった瞬間の、幼稚園の卒園式の様子から映像は始まった。長く続く横揺れ、悲鳴を上げながら何かに必死にしがみつくと子どもたち。地震の直後、津波が押し寄せてくる。20メートルにも達する波が町をのみ込んだ。そして、津波が去った後は瓦礫の山だった。次々と映し出される被災地の惨状に、会場の誰もが言葉を失った。

「海から押し寄せる黒い波と、降りしきる雪の白さ、そして真っ赤な炎と灰色の煙……濁ったような光景でした」

生活の糧を失う悲劇 支援の意味を痛感

映像に出てきた女性は記者のインタビューに答えてそう語った。司会を務めた岩瀬昭典氏は、映像に解説を加えながら「今回の震災の特徴は、津波がいろいろな意味で大変な爪痕を残してしまったことにあります」と、地元メディアの立場から津波の恐ろしさを語った。

岩瀬氏は東北の雇用問題についても触れた。東北の暮らしを支える水産業も、津波によって壊滅的な被害を受けた。牡蠣や海苔の養殖を元どおり立て直すまでには数年を要し、失業者は甚大な数に上るだろう。先の見えない生活が被災者を苦しめている。

私たちもまた、震災直後とは違った視点で復興支援に向き合わなければならない。

公開座談会

被災地と埼玉・新座の橋渡しを

——女子大生ならではの活動を続けたい

授業料減免の支援で 大学を辞めずにすんだ

現地報告に続き、被災した本学の学生と被災地でボランティア活動を体験した学生、職員、そして横須賀薫学長との座談会が岩瀬氏の進行で行われた。まず福島県浪江町出身の松崎沙織さん(人間発達心理学科3年)と、福島県須賀川市出身の海村智美さん(食物栄養学科2年)が、被災した当時の心境や現在の生活について語った。

春休みで実家に帰省中、震災に遭った松崎さんはこう話す。「地震が起きてすぐ、何も持たずに都内の親類の家に避難してしまっただけで、食料や衣類をそろえるのが大変でした。何をかうにもお金がかかってしまうので、生活していくのに苦労しました」。

一時は大学を辞めることも考えたという松崎さんだが、被災学生に対する授業料免除など本学の支援を受けて踏みとどまった。「両親が須賀川市の仮設住宅で暮らしながら、授業料軽減などの支援を受けて勉強を続ける海村さんも、「友人に相談に乗ってもらい心が休まりました」と周囲に感謝した。

留学生や職員も参加 現地ボランティア活動

被災地でのボランティア体験を語ったのは、中国人留學生のトウケンテイさん(社会情報学科2年)と、本学キャリアセンター主任の前永里子さんだ。トウさんは石巻で約200人分もの水餃子を作り、被災した人たちに届けた。「おいしかった、ありがとう」という言葉がうれしかったという。原さんも石巻に入り、食器の片づけや支援物資の仕分けなどを行った。

「これからは被災された方への心のケアや、子どもたちへの学習や遊びの支援なども必要とされるでしょう。そうした活動は女性のほうが接しやすい場合もある。女性同士が普通に話をするだけでもいいと思います。実際に足を運んで地元の方とふれあってほしいですね(原さん)」

これを受けて横須賀学長は、「日常生活に密着した、女子学生ならではの活動の仕方もある。頑張してほしい」と述べ、大学としての支援策についても説明した。本学では、被災地へボランティア活動に向かう学生への交通費支援や、被災した学生が本学で勉強を続けるための財政支援、被災地の高校生を対象とした受け入れ支援など、数々の対策に積極的に取り組んでいる。

震災への対応 本学教職員フル回転

ボランティア報告

岩手県の陸前高田へ 徳野ゼミ・橋本ゼミ13名
 小さな力をかき集めて
 被災地にもっと笑顔と温もりを

8月1日(月)～3日(水)、食物栄養学科の徳野ゼミ(4年3名)とコミュニケーション学科の橋本ゼミ(3年10名)は合同で、陸前高田市の特別養護老人ホーム高寿園でボランティア活動を行った。橋本ゼミではこれに先立ち、災害と女性に関する文献を読み、シンポジウムに参加して内容を深める準備をした。ゼミ生の高橋美帆さんが報告する。

忘れてはいけない光景

東日本大震災から約5カ月が経ち、自分の目で見た陸前高田の風景は衝撃的なものだった。とても怖かった。形をほとんどなくした車、元が何かすらわからない瓦礫の山々。沿道の木の枝には人の衣服やタオルのようなものがボロボロの状態で見つかった。頭の中が真っ白になり呆然とした。

一人じゃない、皆の力で

そんな風景の中にも、人の温もりが感じられるものを見つけた。仮設の銭湯やスーパー、病院など。どの建物も決して立派なものではないが、そこには間違いなく復興の光が見えた。「被災地＝悲しみ」という一面的な見方は間違っていると思った。



高寿園での網戸の掃除、草取り。ほかに食事の介助などを行った。

特別養護老人施設でのボランティア活動を通じて、たくさんの笑顔に出会った。とても素敵な笑顔だった。しかし、心の中に深い悲しみが隠れているのも確かだ。どうか負けないでほしい。私たちはとても小さな力しか出せないけれど、その小さな力をかき集めて、できるだけのことをしたい。少しでも笑顔が増えるように祈っている。一人じゃない、皆で歩いて行こうと伝えたい。

01 本学キャンパスの放射線量率は問題なし

本学グラウンドを測定

4月23日(土)と25日(月)に、シンチレーションサーベイメーターを用いて、本学および幼稚園のグラウンドを対象に、土の上高さ1mと0.1mの位置において大気中の放射線量率を測定した。結果は0.05から0.10マイクロシーベルト/時間の範囲。4月19日付けで文部科学省・厚生労働省から発表された「学校等の校舎・校庭等の利用判断に係る暫定的考え方」による校庭および屋外活動の制限を



幼稚園での測定 (総務課 星 雄大)

大幅に下回り、本学グラウンドは問題がないことが判明した。6月にも測定を実施しており、今後も放射線量率の測定を継続して、結果を大学のホームページ上に公表していく予定だ。

(食物栄養学科教授 田中茂)

02 田中茂教授が放射性物質の講義

新座市民との交流会

6月4日(土)、新座市西分集会所で、新座地域交流会「環境まちづくり地域協議会 in いざ、わいがや交流会」が主催する放射線の勉強会が開催された。新座市の議員や職員をはじめ、地域住民の70名を超える方が集まり、会場は定員オーバーの状態に参加者の熱気がこもった。勉強会では、まず筆者が原子力発電所から放出された放射性物質について講義を行い、その後、参加された皆さんがつくった食事をとりながら質問に答えるなど、地域住民の方と交流を深めた。9月28日(水)には、埼玉県医師会の依頼で、埼玉県の医師約200名を対象に「原子力発電所事故に伴う放射性物質による曝露防止について」の講義を行った。

(食物栄養学科教授 田中茂)



みな熱心な表情で、講義に聴き入る。

04 避難訓練

震度6の想定で実施

例年5月に総合避難訓練(1-1-9 番通報訓練、避難訓練、避難器具による降下訓練、消火器による消火訓練)を行っているが、秋にも、授業時間中に震度6の地震が起きたことを想定した避難訓練を実施する。

(総務課長 柳澤貞夫)



学生総会の後に実施した5月の避難訓練。

05 節電に丸

7月の電力使用量24%削減を達成

政府からの電気の使用制限に関する要請を受け、「夏期の電力需給対策」を策定するとともに、学長を本部長とする「十文字学園女子大学電力需給対策本部」を設置した。エアコン設定温度(28℃)の徹底、エレベーター稼働台数の削減、密ガラスの遮熱対策、事務機器の節電・省エネ設定、昼休み時間の消灯、クールビズの励行(5月～9月)、夏期の一斉休暇の延長、デマンド計の見える化など、さまざまな施策を実施す

06 ボランティア経費の支援

学生の活動をサポート

教職員や教職員の引率による学生の災害ボランティア活動を、大学が支援する。補助の対象となるのは、①被災地において団体に借り上げるバス、レンタカー代金、ガソリン代等、②その他、学長が特に補助が必要と認めた経費(要相談)。大学の被災地支援の一環として、災害ボランティア支援に幅広く対応していく考えだ。

(総務課長 柳澤貞夫)



学生の節電意識を高める効果も。

07 学内ショップでも

東北の商品を販売(十文字学園生協)

十文字学園生協は、震災当日にキャンパスに残っていた学生・教職員に炊き出しを実施した。新学期が始まってからは募金活動を開始し、7月末までに2万3130円の募金が寄せられている。店舗では「福島県 酪王乳業」の商品を販売し、学生の皆さんにご利用いただくことで東北の産地復興を応援。秋には東北の食材を使った企画メニューを予定している。

被災地の児童に文房具(フジショップ)

学生ホールのフジショップからは多くの支援物資が届けられた。震災当日には十文字学園にお菓子200人分を、その翌日にはメロンパン200個を提供。また、被災地にも、小学校にノート300冊を贈るなど、4回にわたって文具類の支援物資や義援金の寄付を行った。

03 被災学生に納付金免除

学生および教職員から義援金を募り、4月25日(月)に、233万7000円を日本赤十字社を通じて届けた。また、震災で家屋などを損壊した学生13名に対し、総額49.5万円の前期学納金免除を行った。



2011年6月5日(日)

震災から2カ月

「卒業記念の式典」を挙げる

ようこそ、お帰りなさい——。
東日本大震災から約2カ月経った6月5日(日)、
469名の卒業生が本学記念ホールに足を運び、
「卒業記念の式典」が行われました。



Graduates' Speech

心残り消し社会へ

ようやく卒業したと実感

田島 綾さん 人間生活学部人間発達心理学科卒

今日、この記念ホールに入り、ようやく十文字学園女子大学を卒業したのだと実感がわいてきました。4月から、東京都中野区の小学校で教員として一歩を踏み出しましたが、今後さまざまな課題に直面すると思います。そんなときも、十文字学園の存在を思うだけで力が湧いてきます。今後の大学のますますのご発展をお祈りいたします。

大学での学びが生きている

佐藤綾香さん 短期大学部文学科国語国文専攻卒

社会人としてのマナー面だけでなく、パソコンスキルなど、大学で学んだ内容が今、生かされています。東日本大震災の影響で学位記授与式が中止になり大変残念でしたが、今こうして卒業生の集いに出席することができて大変うれしく思います。今後は日本経済の活性化に貢献できるよう、自信と誇りを持って働いていきたいです。

これを受けて、卒業生代表の浅賀有莉さん(社会情報学部社会情報学科卒)が答辞に立った。
「私たちのために本日、卒業記念の式典を開催していただきましてありがとうございます。私は、かねてから志望しており

卒業生を代表して 浅賀有莉さんが答辞

る生き方』を追求する皆さんに突きつけられている課題なのです」と、十文字育ちの新社会人に対し期待を込めた。

ましたIT業界の企業に就職し、システムエンジニアの職に就いています。入社以来、ビジネスマナー、業務知識やスキルを学び、現在も研修中の身です」と、久々に顔を合わせた学友や教職員に近況報告。
「学生と社会人との違いに驚くこともありましたが、専門的な知識をはじめ、大学で学んだことは、職場でのコミュニケーションや日常生活にも大変役立っていると、日々実感しています。今後、十文字学園女子大学の卒業生として、一社会人として、自信を持って業務に取り組んでいきます」と、大学への感謝の気持ちを伝えた。
(取材・文・大嶋理恵記者)

挨拶に立った十文字一夫理事長は、「ようこそ、お帰りなさい」と卒業生を温かく迎え、「皆さんが足を踏み入れたばかりの社会は、大震災の復興が日本国民全体の責務になっている今日、大変厳しいと思います。だからこそ私は、卒業生の皆さんに社会人として心がけてほしいことがあります」と切り出した。
その上で「仕事をしている最中には、絶対に人前で泣かないことです。涙は女の武器ではありません。社会に出て仕事をしていると、泣きたくなることは山ほどあると思います。そんなときは、家へ帰って一人で涙を流す。そして翌朝には、平気な顔をして他人に温かく優しく親切に接するのです。その『優しさ』と『強さ』が、皆さんを幸せな社会人へと導いていって

辛くても、優しさと強さを忘れずに

東日本大震災の影響で中止せざるを得なかった、平成22年度十文字学園女子大学および同短期大学の学位記授与式。これに代わる「卒業記念の式典」が、6月5日(日)、本学記念ホールで行われた。
フジテレビ、テレビ埼玉のカメラが回る中、社会情報学部、人間生活学部、短期大学部から計469名の卒業生が、保護者、学長、理事長、教職員らの熱い祝福を受け、新座キャンパスで「一生の思い出」をかみしめた。

思い出をかみしめる卒業生の様子を フジテレビ、テレビ埼玉が放映

くれると、私は思っています」と語りかけ、社会の厳しさに触れながら、卒業生を社会の一員として激励した。

世の中では常に 的確な判断が必要

理事長の挨拶に続き、横須賀薫学長は、「災害ボランティア」に象徴される助け合いの精神が広がる一方、「風評被害」に表れている非科学的、付和雷同的、そして自己の利害優先の生活姿勢が広がっていることも、今日の日本社会の現状です。十文字学園を巣立った皆さんは、このどちら側に立つのか、これからのいよいよ社会人として問われることになりま」と語った。そして、「世の中というものは、常に対立する価値観の間立つ的確な判断が問われる場なのです。それこそが、学園歌にある「立ちて甲斐あ

今春スタート
「十文字学」総合科目
冠講座リアリズムの迫力

企業から女性の生き方を学ぶ
女子大ならではの社会連携講座

社会の知を大学に取り込んで学生の学びを刺激する総合科目、いわゆる冠講座が「十文字学」の目玉として今春スタートした。その先陣を切った資生堂の講座は秋の工場見学でフィナーレへ。9月末の後期からは「埼玉発／メディアの現場から」、そして「野村證券のグローバルな展開」が始まり、人気を博している。

2011年秋開講
メディアにアプローチ

埼玉発／メディアの現場から

記者たちが熱く語るメディアの志

内容 地元メディアのトップや、第一線で働く女性記者、女性キャスター、制作担当者らを招き、地域をリードするメディアの志を語ってもらう。

協力 埼玉新聞社、テレビ埼玉、NACK5、J:COM、NTTドコモ、共同通信社

カリキュラム	内容
第1回 埼玉新聞社 埼玉新聞社長丸山晃氏(開講挨拶)、社長小川秀樹氏「埼玉新聞社が目指すもの」	第1回 埼玉新聞社 埼玉新聞社長丸山晃氏(開講挨拶)、社長小川秀樹氏「埼玉新聞社が目指すもの」
第2回 埼玉新聞社 埼玉新聞社記者(報道部)・小出菜津子氏、岩波里枝氏「女性記者の楽しさ、つらさ」	第2回 埼玉新聞社記者(報道部)・小出菜津子氏、岩波里枝氏「女性記者の楽しさ、つらさ」
第3回 埼玉新聞社 埼玉新聞社取締役総務企画室長・宮下達也氏「スポーツの感動を伝える」	第3回 埼玉新聞社取締役総務企画室長・宮下達也氏「スポーツの感動を伝える」
第4回 埼玉新聞社 埼玉新聞社編集局長・石野榮一氏「紙面づくりの現場から」	第4回 埼玉新聞社編集局長・石野榮一氏「紙面づくりの現場から」
第5回 テレビ埼玉 テレビ埼玉総務局長待遇兼総務	第5回 テレビ埼玉 テレビ埼玉総務局長待遇兼総務
第6回 埼玉新聞社 テレビ埼玉東京支社営業部長・新井千里氏「コミュニケーションの大切さ」	第6回 埼玉新聞社 テレビ埼玉東京支社営業部長・新井千里氏「コミュニケーションの大切さ」
第7回 テレビ埼玉 テレビ埼玉報道制作局報道部次長・宮内里江子氏「テレビ報道記者の一番長い日」	第7回 テレビ埼玉 テレビ埼玉報道制作局報道部次長・宮内里江子氏「テレビ報道記者の一番長い日」
第8回 FMNACK5 FMNACK5ニュースルームアナウンサー・植田有紀子氏「アナウンサーのこころ」	第8回 FMNACK5 FMNACK5ニュースルームアナウンサー・植田有紀子氏「アナウンサーのこころ」
第9回 FMNACK5 FMNACK5放送本部編成部長・深川聡氏「ラジオのすすめ」	第9回 FMNACK5 FMNACK5放送本部編成部長・深川聡氏「ラジオのすすめ」
第10回 ジェイコムさいたま (株)ジェイコムさいたま代表取締役社長・氏本祐介氏「J:COMの目指すもの」	第10回 ジェイコムさいたま (株)ジェイコムさいたま代表取締役社長・氏本祐介氏「J:COMの目指すもの」
第11回 ジェイコムさいたま (株)ジュビターテレコム「コミニティチャンネル部 関東メディアセンター 編成グループ アシスタントマネージャー 横内智美氏」J:COMが目指す地域メディアとしての役割	第11回 ジェイコムさいたま (株)ジュビターテレコム「コミニティチャンネル部 関東メディアセンター 編成グループ アシスタントマネージャー 横内智美氏」J:COMが目指す地域メディアとしての役割
第12回 共同通信社さいたま支局 一般社団法人 共同通信社さいたま支局長・田村孝氏「通信社と地域メディア」	第12回 共同通信社さいたま支局 一般社団法人 共同通信社さいたま支局長・田村孝氏「通信社と地域メディア」
第13回 NTTドコモ埼玉支店 NTTドコモ埼玉支店長・坂口昌平氏「ケータイのこれまでとこれから」	第13回 NTTドコモ埼玉支店 NTTドコモ埼玉支店長・坂口昌平氏「ケータイのこれまでとこれから」
第14回 埼玉の読者・視聴者・リスナーとともに「埼玉発のメディアへの注文」	第14回 埼玉の読者・視聴者・リスナーとともに「埼玉発のメディアへの注文」
第15回 まとめ	第15回 まとめ



埼玉新聞社丸山晃会長の開講挨拶。
冠講座の講師陣は多彩で現場経験豊かです。物事を大づかみにとらえるばかりでなく、具体的な問題解決の知恵を授かる瞬間もあるでしょう。就職を意識した貴重なマスコミ企業の研究が大学の教室にいながら可能になるというメリットもあります。地元メディアの「密」から、地に足を付けて世の中を知る機会としてください。
(教授 大西正行)

2011年秋開講
ビジネスにアプローチ

野村證券のグローバルな展開

金融ビジネスの最前線から学ぶ

内容 金融ビジネスの第一線で活躍する支店長や女性社員などから、老後の資金、預金、株式投資・運用などについて語ってもらう。

協力 野村證券

カリキュラム	内容
第1回 ガイダンス	第9回 投資家心理を学ぶ
第2回 経済事情を始め	第10回 資産運用とライフプランニング
第3回 外国為替のいろは	第11回 日本株の歴史
第4回 リスク&リターン	第12回 金融の仕組み
第5回 ポートフォリオの考え方	第13回 財政の仕組み
第6回 債券入門	第14回 金融市場のゆくえ
第7回 株式入門	第15回 まとめ
第8回 投資信託入門	

担当教員から
身近に社会を体感する授業

本学では過去7年にわたって野村証券練馬支店にご協力いただき、証券市場や日本の経済・金融全般についての授業を担当していただいています。特に理論だけではなく、実務を経験している方の講義は、学生にとってよりリアルな体験となっているようです。この授業を受け、卒業後に証券会社に就職した学生もいます。
希望する学生には、練馬支店を見学する機会もいただきました。実際の証券会社の現場を見ることができ、学生には大変参考になる授業でした。



(准教授 込江雅彦)

第一弾(前期終了)
女性の生き方にアプローチ

資生堂講座一瞬も、一生も、美しく

実践的な学びに120名が感激

内容 女性社員の能力開発やワーク・ライフバランスが進んだ代表的企業である資生堂の社員を講師に迎え、美と健康、CSR、社会人になる意味などについて学ぶ。

協力 資生堂

カリキュラム	内容
第1回 働くことで社会と関わる	第9回 CSR概論
第2回 資生堂の歴史・理念	第10回 ビューティーアップセミナー体験
第3回 化粧品業界・資生堂のビジネス	第11回 資生堂ならではの具体的な取り組み
第4回 化粧品・肌・美容法(理論)	第12回 環境対策
第5回 化粧品・肌・美容法(実践)	第13回 女性の活躍・ワークライフバランス
第6回 まとめ・レポート・アンケート	第14回 昨今の就職活動
第7回 工場見学	第15回 まとめ・レポート・アンケート
第8回 工場見学	

担当教員から
働くことの意味を考えた

この講座では「資生堂の概要(理念・歴史・事業)」「美と健康」「資生堂のCSR」「社会人になる意味」の4つのカテゴリについて、講義や見学・実習を通じて理解を深めました。
当初は200名以上の履修希望があったのですが、実習、工場見学などがあるため、120名に絞りました。受講生は、メーカーやパーフェクトカバー・ファンデーションの実習だけでなく、資生堂がトップから実践しているCSR(企業の社会的責任)にも感激したようです。社員の方々の仕事に対する考え方を学び、5年後、10年後の夢に向けてこれからどう生きるか考えました。
資生堂は、ちょうど十文字こと先生誕生の2年後、1872年に薬局店として銀座に設立されており、本学とのご縁を感じます。
(教授 橋本ヒロ子)



資生堂がCSRの一環として取り組む「ビューティーアップセミナー」も体験。
写真:上柿茜記者



山本茂教授

大学院人間生活学研究科/人間生活学部食物栄養学科

世界で活躍 「栄養指導のプロ」育成

～アジアに十文字の看板を～

この先生に会いたい

栄養指導を志す 学生たちへの願い

今年のGW明け、山本茂教授は人間栄養学概論の授業で、食物栄養学科1年の学生に小テストを課した。

Q: コメの消化・吸収率は「たんぱく質」「脂質」「炭水化物」それぞれ何%ですか？

Q: 豆腐ではどうですか？牛肉ではどうですか？

医療従事者でも多くが正解を出せないと言われる質問をいきなり課したのは、「栄養学は日常的だから簡単だなどと、栄養指導を志す十文字の学生に思っほしくなかった」からだ。

昨春の本学食物栄養学科の大学院(食物栄養学)開設を受け、お茶の水女子大学大学院から赴任した山本教授の教学方針は、自分の感覚に基づいた誤った常識や思い込みにとらわれず、世の中の疑問に対して学問的にきちんと説明できる栄養指導のプロを育成することである。

例えば、「最近、日本人の食事が欧米化し、それが原因で生活習慣病が増えた。だから本来の日本食に帰ろう」というような意見がいくつも簡単に述べられる。山本教授は、その定義さえあまいまな「欧米食」「日本食」の概

念を疑いながら、栄養学的にこの見当違いの議論を覆す。「日本人の食事が欧米化した」というよりも、昭和40年代までの貧困な日本の食事に、欧米や他国の食文化の影響が入り込んで多様化し、栄養的にも豊かになった。米・麦・野菜に頼り切った食生活に、諸外国の豊かな食文化が導入されてきたことは、至極当然なことなのです」

こうした食事の多様化は、それまでの貧弱な食生活による塩分多量摂取が招く脳卒中死亡率の急速な低下に貢献した。その意味で、「食事の欧米化」という言葉がもたらすマイナスイメージは的確とは言えず、日本食がすべて善と思込む常識も適切さを欠いていたのである。

また、心臓病やがんの死亡率が食の欧米化によって増えたということも断定はできないという。「近年の高齢化の要素を抜きにしては考えられない」と山本教授は分析し、不適切なライフスタイル、身体活動の減少、過激なやせ願望等の諸要因を、総合的に突き詰めて結論を導くべきではないかと警鐘を鳴らす。

この情熱は、アジアから優秀な留学生を本学大学院に呼び、本学からは指導教授が現地に赴きアジアとのパイプを強固にする、という構想へと繋がる。さらに、論文の書ける栄養教諭・管理栄養士・大学教官の養成を展望し、英語論文も完成できる人材育成を目標としており、9月、これらの達成のために「アジアの栄養・食文化研究所」を立ち上げた。十文字のアジア戦略を練るキーマンの馬力は、国際的に通用するプロ栄養士育成の使命感からわき出している。

Profile
やまもと・しげる◎人間生活学部食物栄養学科教授。コロンビア大学大学院修士課程修了(国際栄養学、フルブライト留学生)。徳島大学大学院栄養学研究科博士課程修了。琉球大学教授、徳島大学教授、お茶の水女子大学大学院教授を経て、2011年に十文字学園女子大学人間生活学部教授に就任。同大学院人間生活学研究科教授、同大学アジアの栄養・食文化研究所所長。保健学博士。台北医学大学大学院、台湾静宜大学大学院、ハノイ国立栄養研究所、ハノイ公衆栄養大学及びベトナム医療技術大学の客員教授を兼任。
【研究分野】タンパク質・エネルギーの必要量、学校給食摂取基準、国際栄養学、他【担当科目】人間栄養学概論(学部)、国際栄養学特論・同演習(院)

「アジアの栄養・食文化研究所」発足
研究者としてアメリカ、沖縄、

「アジアの栄養・食文化研究所」発足
研究者としてアメリカ、沖縄、

「アジアの栄養・食文化研究所」発足
研究者としてアメリカ、沖縄、

「アジアの栄養・食文化研究所」発足
研究者としてアメリカ、沖縄、

ベトナムの栄養改善に対する貢献が評価され、昨年、ベトナム保健大臣賞を受賞。

2011 就職支援レポート

全国的にも高い就職率を誇る本学では、学生や保護者に向けてさまざまな就職支援活動を行っている。



夏季インターンシップ報告

毎年夏に実施しているインターンシップ。今年度参加した43名の学生の中から水野遥さんの体験記を紹介します。

私は将来、編集の仕事に就きたいと考えている。NHK出版でのインターンシップでは社会人としての心構えを学び、多くの刺激を受けることも貴重な機会となった。

研修前半は宣伝・デジタル推進部、後半は家庭編集部でお世話になった。出版物が発行されるまでの流れや具体的な業務内容について、2つの部署それぞれの角度から知ることができた。

まず学んだのは「宣伝部とは、何をするといいのか」。5日間を本を「宣伝」周知「するため

2011年度 夏季インターンシップ受け入れ先

- 朝霞市役所
- あさ出版
- NHK出版
- クレスシエンド
- ココヨマーケティング
- 五大工業
- ザ・ライトスタッフ
- オフィス
- 埼玉新聞社
- 佐藤農園
- 燦クリーン
- 志木市役所
- 夢科情報
- つばさエンタテインメント
- 東急アド・コミュニケーション
- ケーショングループ
- 東和エンジニアリング
- トップシーン
- 新座観光トラベル
- 新座市役所
- ボン
- 丸正飯塚
- 丸文堂
- リコージャパン
- リそな銀行
- ロハス工房
- 和光市役所
- 五十音順

必要なら方法を、発信側と考えることができた。また、家庭編集部では、編集の作業を間近で見学。実際に発行が予定されている本の企画に携わったときは、新鮮な気持ちでいっぱいだった。そして、以前より深く、具体的に編集業務について捉えることができた。

この経験を通して、さらに出版業界に魅力を感じ、自分が進みたい進路が明確になった。就職活動を控えた私にとって、大変意義深いインターンシップとなった。



保護者向け就職セミナーを開催

就職氷河期が続く中、就職活動は家族で立ち向かうもの——。本学では保護者に向けた就職セミナーを開催しています。

5月14日(土)、本学記念ホールで「保護者向け就職セミナー」を開催。保護者411名が、「森ゼミ」主宰・森吉弘氏(元NHKアナウンサー)の講演「過保護にしない、寄り添って家庭でできるキャリア教育」を聴いた。森氏は、学生たちがどのような思いで就職活動に臨んでいるのか、子どもへ寄り添う親の心構えなどについて解説。特に、①親が寄り添い、ほめて自尊心を高めること②必要な時事情報が掲載された新聞を切り抜いて渡すこと③数字や固有名称をはっきりとした言葉で話すこと④歯切れよく話すこと⑤多く失敗し小さな成功を重ねること、という5つの大切さを指摘した。

セミナーに先立ち、十文字一夫理事長、横須賀副理事長、橋本ヒロ子副学長が、人材を磨き、社会に送り出す本学としての姿勢や就職支援、就職状況について説明。講演後は学科ごとの説明会も実施され、参加者はメモを取りながら熱心に耳を傾けた。

記者の目
周りの支えを実感
森氏の講演の中で最も印象的だったのが「就職力は誰もが持っている力」という言葉だ。大切なのは大学生生活をいかに有意義に過ごすかということだろう。大学や親が就職活動を理解し、支えてくれていることに勇気づけられた。自分も将来を見つめ、就職活動に真摯に取り組んでいこうと思う。

新座女子学生安全対策協定締結式
新座女子学生防犯リーダー委嘱式



地域と結び

地域から学ぶ



- 1 安全対策協定の締結式で、新座警察署長、新座市長らと記念撮影。
- 2 山下朝霞駐屯地司令が表敬。
- 3 「子ども大学にいざ」での入学式。

本学は新座市にある大学として、地域と連携したさまざまな取り組みを実施しています。

学生防犯リーダーとして、積極的に安全活動

新座警察署で協定締結式

7月29日(金)、十文字学園と跡見学園女子大学、新座市および新座警察署が連携して、「犯罪の未然防止と抑止」を目的とした安全対策協定の締結式と学生防犯リーダー委嘱式が新座警察署で行われた。本学からは5名の学生と横須賀警察署長ら5名の関係者が出席した。

締結式では、井桁勲新座警察署長が「女性にかかわる犯罪の被害が増えてきている。防犯対策が必要不可欠であり、犯罪被害を少なくするために、情報を共有して、学生に防犯意識を高めてもらいたい」と強調。須田健治新座市長は

山下朝霞駐屯地司令らが横須賀学長を表敬

本学学生のチャレンジに期待

7月11日(月)、日夜、日本の防衛と東日本大震災の救援派遣などに当たっている陸上自衛隊朝霞駐屯地の山下裕貴駐屯地司令(東部方面総監部幕僚長・陸将補)、上田寛孝東部方面総監部広報室長(一等陸佐)ら3名が横須賀学長、橋本ヒロ子副学長を表敬訪問した。新座市にもまたがる朝霞駐屯地には本学OGも女性自衛官として働いており、6月には、橋本副学長と、本学で発行予定の地域フリーペーパーのために女性自衛官の取材を企画している学生が、同駐屯地を訪問している。

4000名の隊員を抱える山下駐屯地司令

「学生の交通面での安全性を高め、歩道や駅からのアクセスの整備も進めていきたい。協力してよい環境にしていこう」と話した。

横須賀学長は学生に向けて、「皆さんは学生防犯リーダーとして、学生や地域住民が安心して生活が送れるよう、模範となって行動してもらいたい」と語った。

本学代表者で決意表明をした児童幼児教育学科3年の加藤温子さんは「防犯リーダーとして、積極的に安全活動を行っていききたい。自分が小学校教諭になったときに、この貴重な経験を生かせるように励んでいきたい」と語った。この様子はテレビ埼玉でも報道された。(取材・文：水野通編集長)

は、自衛隊における女性自衛官の位置づけの重要性と職場環境の整備について説明。「自衛隊内の女性の比率は約5%で、自衛官同士が結婚しても安心して働けるよう駐屯地の設備の一つに託児所があります。自衛隊では管理栄養士関係の人材を募集しているので、将来の就職の選択肢の一つに入れてください」と、本学学生のチャレンジに期待を込めた。

山下駐屯地司令は、今回の東日本大震災における朝霞駐屯地からの自衛官現地派遣の対応について説明するとともに、「駐屯地のイベントなどを通して自衛隊員が地域と触れ合う機会を多く持ちたい」と語った。

(取材・文：大野詩歩編集長)

学長、恵山通りの交通指導にお礼

「学生の挨拶は気持ちがいいです」

7月27日(水)、横須賀学長と新座市シルバー人材センターの6名が、学長室で昼食をとりながら懇談した。シルバー人材センターの方は、毎朝2時間、恵山通りの数カ所にとって本学学生に交通指導をされており、学長がお礼を述べた。

「皆さん元気に挨拶してください。大変な気持ちがいいですね」といううれしい言葉のほか、「自転車の右側通行は危険なので、きちんと左側を通行するようにしてください」とのご指摘もいただいた。いつも交通指導をしてくださっているセンターの方々感謝しながら、安全な登下校に努めたい。

(取材・文：三浦秀佳記者)



「子ども大学にいざ」を開催

成底さんがミニコンサート

「子ども大学にいざ」が本学で開講され、9月3日(土)の入学式には市内外の小学3年〜6年生32名が参加した。横須賀学長が「学びは友情・冒険・想像の3つである」と語り、本学学生が校歌を披露した。この後、キングレコードの成底ゆう子さんをお招きし、「ミニコンサート」が開かれた。成底さんは、石垣島から上京し、シンガーソングライターとして認められるまでの体験を語り、「ふるさとからの声」など5曲を披露された。歌の中には、「誰も一人ぼっちではない」といった温かいメッセージが込められ、一般の方を含め200名が、成底さんの澄んだ歌声に聴き入り、魂を揺さぶられ胸を打たれた。(取材・文：三浦秀佳記者)

生協に地方紙の書籍コーナー

「地方紙から学ぶ」と題した書籍コーナーが、6月中旬から大学内生協に新設された。地元の埼玉新聞社、東日本大震災で甚大な被害が出た宮城県に本社を置く河北新報社発行の書籍が並ぶ。地域とのつながりを深める取り組みの一環で、コーナーには「北朝霞物語」「命をつなぐ」(埼玉新聞社)、「巨大大津波が襲った3.11大震災」(河北新報社)など、地域を見つめた書籍が目を見ている。

(取材・文：加藤優美解説委員長)

免許状更新講習を本学で実施

教員免許更新制の導入に伴い、8月3日(水)から合計5日間にわたり、本学では3年目となる免許状更新講習を実施した。受講者は本学と連携している新座市、志木市、朝霞市、和光市の勤務者や本学の卒業生を中心に267名、延べ887名。うち本学の卒業生は、短期大学の初等教育学科4期生(昭和53年3月卒業)20名を中心に55名が出席した。現役教員として活躍している卒業生が数多くいることは喜ばしい。来年度はさらにより更新講習となるよう検討していきたい。

3年目の教員31名が研修

7月29日(金)と8月1日(月)、本学で新座市教育委員会(「新座市3年経験者教員研修会」)を開催。この研修会は新座市内の小・中学校教員で3年目を迎える若手教員に対するもので、今年で4年目の実施となる。本年度は31名(男性14名/女性17名)が参加。講師は新座市教育長の金子廣志氏、本学の横須賀学長、児童教育学科などの教授陣に加え、ゲスト講師として川嶋環先生(元群馬県島小学校教員)をお招きした。

食育フェスで長澤ゼミがシアターを上演

上演テーマは「被災地の食」

食物栄養学科・公衆栄養学の授業では、栄養関連法規に基づき地方公共団体が実施している健康増進事業などについて教えている。6月15日(水)〜19日(日)に墨田区で開催された「すみだ食育フェスティバル2011」のシンポジウム「食を通して被災地とすみだの未来を考える」では、長澤ゼミ3年生の6名が、エプロンシアター「被災地の食を考えよう」を上演した。被災地の食の状況を知ってもらい、「食を選べる環境にある私たちこそ、バランスのよい食事をしているかどうか見直そう」と呼びかけた。

(文：長澤伸江教授)



イモプロが発足！スイーツを開発

売上金は被災地の子どもたちへ

新座市内の酒店主が中心となり造った芋焼酎「指月喝」。児童教育学科1年生のグループ「イモプロ」が中心となり、その材料となるサツマイモの栽培に協力している。

また、収穫したサツマイモの一部を提供してもらい、新しいお菓子「スイーモ」も開発した。新座市のさまざまなイベントで販売し、売上金の全額を東日本大震災で被災した子どもたちへの義援金とする予定である。



創立者のメッセージは「親切心」



十文字一夫理事長は、7月下旬、「女性を学ぶ」「ジェンダー論I」「女性学基礎」の授業で、約440名の学生を前に、本学園創立者で祖母である十文字こと先生の生きた社会と教育について講義した。「創立者を偶



なく、一番後ろの生徒まで先生の声が届かなかったら授業になりませんでしたから」と、趣味も教育に生かしてしまう創立者の知恵に触れ、特に教職を目指す学生に対して「皆さんも声を出す練習をぜひ」とアドバイスした。

像化せず、その実像を話したい」と前置きし、昭和20年4月の東京空襲で単鴨の校舎も家も焼けてしまい、こと先生がゼロから学校復興に向けて再起したのが、今、自らもその歳にあたる「こと先生75歳のとき」だったことを明かした。

また、こと先生が率先して語の練習を始め、周りの先生にも熱心に薦めたエピソードも披露し、「昔はマイクなどなく、一番後ろの生徒まで先生の声が届かなかったら授業になりませんでしたから」と、趣味も教育に生かしてしまう創立者の知恵に触れ、特に教職を目指す学生に対して「皆さんも声を出す練習をぜひ」とアドバイスした。

平成23年度 学業成績優秀者を表彰

7月20日(水)、学業成績優秀者として横須賀薫学長より46名の学生が表彰された。

社会情報学部	社会情報学科	4年生	三上 舞 小林 愛
		3年生	中山 苑美 藤森 未紀
	コミュニケーション学科	2年生	大八木 沙英 坂間 淳美
		4年生	倉元 秋帆 村中 美奈
	児童幼児教育学科 幼児教育専攻	3年生	齋藤 未樹 中川 優
		2年生	長谷川 詩歩 島田 謙
4年生		高橋 菜由 高橋 日菜子	
児童幼児教育学科 児童教育専攻	3年生	山下 千草 仲里 美香	
	2年生	福吉 椋子 井上 ルリ	
	4年生	齋藤 礼乃 笹川 千洋	
人間生活学部	食物栄養学科	3年生	福嶋 実佳子 清水 亜美
		2年生	武藤 彩花 今井 友里子
	人間福祉学科	4年生	小林 夏美 小高 由美
		3年生	坂本 千秋 石崎 麻衣子
	人間発達心理学科	2年生	倉若 美咲 遠藤 真奈美
		4年生	澁谷 めぐみ 和田 香織
短期大学部	文学科国語国文専攻	3年生	櫻井 育 坂本 ゆき
	文学科英語英文専攻	2年生	鈴木 里沙 大野 加奈恵
短期大学部	文学科国語国文専攻	4年生	鈴木 祐美 小岩 井南海
	文学科英語英文専攻	3年生	近藤 春美 渡辺 ありさ
短期大学部	文学科国語国文専攻	2年生	石川 友己 瀧澤 直子
	文学科英語英文専攻	2年生	設楽 樹那 菊池 泉美

ニュース時事能力検定を実施

6月18日(土)、メディア産業研究所、キャリアセンター、国際交流センターによる団体受検「ニュース時事能力検定試験」が実施され、本学から43名の学生が挑戦した。結果、難関の2級を含めて4級までが全国平均を上回る合格率となり、5級合格者の中には4名の留学生が含まれていた。次回は11月12日(土)(申し込みは十文字学園生協にて)に実施予定。

6/18実施 「ニュース時事能力検定試験」 本学学生の合格率	
2級	66.7% (56.4%)
3級	71.4% (61.1%)
4級	92.3% (74.8%)

※カッコ内は全国平均

七夕の日にティーパーティー

7月7日(木)に代表委員会企画局主催の「七夕ティーパーティー」がカフェテリアで行われた。8回目を迎える今年は、チケットが早々と完売し、留学生17名、日本人学生23名が参加した。開会の挨拶では大西国際交流センター長から、この留学生交流イベントの積み重ねによるさまざまな成果が伝えられた。その後、フリートークやクイズやビンゴゲームなどが行われ、和気あいあいとした雰囲気の中、留学生と日本人学生が連絡先を交換するなど、学生同士の仲が一気に深まった様子だった。

(取材・文：松岡みどり副編集長)

海外語学留学生を壮行会で激励

7月28日(木)、海外研修プログラムの参加者を激励するため、壮行会を開催した。横須賀学長、大西国際交流センター長、福田同副センター長が出席し、研修に参加する学生たちと中国語研修引率の阿子島先生を激励した。今年の研修は、8月に出発する本学初の中国語研修(北京語言大学)に5名、イギリス英語研修(イーストアングリア大学)に9名、9月からアメリカで約4カ月間参加する単位認定海外研修(セントラルワシントン大学)に2名の学生が参加。中国研修・イギリス研修に参加した学生は9月に無事帰国した。

日本人学生が留学生をサポート

本学には大学・短期大学部と、日本語を集中的に勉強する「留学生別科」に計175名の留学生が在籍している。留学生の生活や学習をサポートするのが「国際交流学生実行委員会」の日本人学生たちだ(旧スチューデント・アシスタント制度)。おもに有志で活動し、茶話会や学習支援などを行っている。留学生たちがよりよい留学生活を送り、異文化交流を体験できるように、これからも見守り続けたい。

科研費説明会を開催

本学では7月21日(木)、学内において、日本学術振興会研究事業部の吉野明研究助成第一課長を講師として、「科学研究費補助金説明会」を開催した。説明会には教員と職員約130名が参加。吉野課長から科研費申請のポイントや基金化に伴う制度改正などが説明され、参加者は熱心に耳を傾けていた。説明後には活発な質疑応答も行われ、たいへん有意義な説明会となった。

若桐会だより

総会・懇親会、今年も華やかに

■第一部「総会」

会員の皆様に感謝の思いをこめて

6月5日(日)、第43回若桐会総会が本学で開催され、467名の会員が出席した。当日、午前中に開催された卒業記念式典に参加の卒業生も引き続き多数参加した。第一部の「総会」では、濱口恵子会長、横須賀薫学長、青木康子委員長の挨拶に続き、平成22年度事業報告、会計報告、平成23年度事業計画案、予算案の審議が行われ、満場一致で可決承認された。

本年度も継続した「卒業生の紹介による受験料優遇制度」では、2011年度入試において57件の紹介があった。会員のご支援・ご協力が、心より厚く御礼申し上げます。その後、部会チーフの誘導により、会員を懇親会場へ案内した。

なお、平成22年度部会創立35周年記念行事の様子を次号コーナーにて紹介予定。



本学から女子大生初のダブルスター

8月3日(水)に学内で実施されたインターネット検定「ドットコムマスター」において、難度の高いダブルスターに社会情報学科3年の中里洋子さんが合格した。シングルスターは5名、ベシックは7名が合格した。また、これまでの出張検定受検者約3万名の中で、女子大生のダブルスター合格は史上初、大学生としては歴代2番目という快挙だった。この検定では、社会で必要となるIT知識を、特定の分野に偏らず基礎から体系的・網羅的に身につけることが求められる。さまざまな職業で役立つ資格だ。

■第二部「懇親会」

心温まる再会のひととき

東聖子学長補佐の挨拶に続き、濱和夫先生による乾杯のご発声。シャンパングラスが涼やかに響き合うなか会食へ。いつもながら料理も大変好評であった。恩師・旧知の友との楽しい懇談の後、「第4回還暦を祝う会」で満60歳を迎えた卒業生・岡本益代(旧姓吉野)さんのご挨拶と、お祝いの花束の贈呈があった。続いて、お知らせコーナーでは、宮城道子先生から「第3回わたしたちと建学理念作文コンクール」(女性と情報研究センター)応募のご案内があった。また、当日は卒業生向けの人間福祉学科編入学相談会も行われた。会場のカフェテリアから眺めるグラウンドの芝生はまるで美しい緑の絨毯のようであった。やさしいそよ風が吹くなか、ガーデンパーティーの設えも大変好評で、しばし回らんを楽しみ、和やかに閉会した。



総会などで会員の皆様からいただいた貴重なご感想やご意見は、今後の活動がますます充実するよう参考にさせていただきます。

岡本益代さん(左)と。

[こちら編集部]

資金収支決算

単位：百万円

科目	22年度	21年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	4,949	4,878	71
手数料収入	80	79	1
寄付金収入	1	5	△4
補助金収入	1,087	1,048	39
資産運用収入	2	3	△1
資産売却収入	49	0	49
事業収入	27	39	△12
雑収入	113	116	△3
借入金等収入	802	153	649
前受金収入	866	886	△20
その他の収入	2,107	1,794	313
資金収入調整勘定	△1,096	△1,107	11
前年度繰越支払資金	2,507	2,128	379
収入の部合計	11,494	10,022	1,472
支出の部			
人件費支出	3,694	3,731	△37
教育研究経費支出	833	730	103
管理経費支出	665	699	△34
借入金等返済支出	28	26	2
借入金等返済支出	138	74	64
施設関係支出	1,243	267	976
設備関係支出	144	708	△564
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	2,465	1,869	596
資金支出調整勘定	△493	△589	96
次年度繰越支払資金	2,777	2,507	270
支出の部合計	11,494	10,022	1,472

消費収支決算

単位：百万円

科目	22年度	21年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金	4,949	4,878	71
手数料	80	79	1
寄付金	4	7	△3
補助金	1,087	1,048	39
資産運用収入	2	3	△1
資産売却差額	29	0	29
事業収入	27	38	△11
雑収入	200	191	9
帰属収入合計	6,378	6,244	134
基本金組入額合計	△628	△344	△284
消費収入の部合計	5,750	5,900	△150
支出の部			
人件費	3,767	3,829	△62
教育研究経費	1,307	1,179	128
管理経費	738	770	△32
借入金等利息	28	26	2
資産処分差額	9	13	△4
徴収不能額	33	21	12
消費支出の部合計	5,882	5,838	44
当年度消費収入超過額	—	63	△63
当年度消費支出超過額	131	—	131
前年度繰越消費収支超過額	4,281	4,344	△63
翌年度繰越消費収支超過額	4,412	4,281	131

貸借対照表(平成23年3月31日現在)

単位：百万円

資産の部		負債・基本金・消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	15,915	負債の部	4,520
有形固定資産	15,642	固定負債	2,894
その他の固定資産	273	流動負債	1,626
流動資産	2,960	基本金の部	18,767
現金預金	2,777	第1号基本金	18,386
未収入金	177	第4号基本金	381
その他	6	翌年度繰越消費収支差額	△4,412
合計	18,875	合計	18,875

主要財務分析比率

単位：%

比率	算式(×100)	評価	22年度	21年度	増減
自己資金構成比率	自己資金/総資金	↑	76.1	77.9	△1.8
人件費比率	人件費/帰属収入	↓	59.1	61.3	△2.2
教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	↑	20.5	18.9	1.6
管理経費比率	管理経費/帰属収入	↓	11.6	12.3	△0.7
帰属収支差額比率	帰属収支差額/帰属収入	↑	7.8	6.9	0.9

*「評価」欄の「↑」は高い値が良い、「↓」は低い値が良いことを示しています。

【総括】

平成22年度は、大学院(人間生活学研究科食物栄養学専攻)を新設いたしました。また、23年度実施に向けて、大学においては社会情報学部および人間生活学部(旧)を改組し、新たに人間生活学部(新)を設置、1学部7学科体制とする準備を、中学・高校においては学習指導要領全面改訂(平成24年度)を1年前倒して実施する準備をそれぞれ進めてきました。このような教育改革を円滑に推進するため、支出では、不要不急の支出抑制等経費削減に努めながら、教育研究面での一層の充実を図っています。

平成22年度

学校法人十文字学園

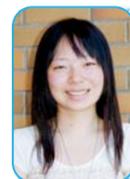
決算の概要



松岡みどり / 副編集長
人間生活学部
児童幼児教育学科3年
狩野ゼミ
私の就活法●アルバイトやボランティアで社会経験を積み、教採試験に向けて猛勉強!



久家未有紀 / 記者
人間生活学部
児童幼児教育学科2年
流田・狩野クラス
私の就活法●講演会やワークショップなどに参加して、自分の視野を広げる。



三浦秀佳 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科2年
設楽クラス
私の就活法●何にでも貪欲に手を出し、経験し、自分の能力に変える。



加藤優美 / 解説委員長
社会情報学部
コミュニケーション学科4年
岡本ゼミ
私の就活法●いろいろな人と会って話す! 応援してくれる仲間を多くつくる!



水野 遥 / 編集長
社会情報学部
コミュニケーション学科3年
鈴木ゼミ
私の就活法●早め早めの行動を心がけ、後悔しないような就職活動にしたい。



赤尾香澄 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科2年
佐藤クラス
私の就活法●積極的に行動することで出会いを広げること。



上野志織 / 解説副委員長
社会情報学部
コミュニケーション学科4年
亀田ゼミ
私の就活法●とにかくキャリアセンターに通い続ける。



天羽洋子 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科2年
大西クラス
私の就活法●たくさんの経験をする。学生生活を充実させる。



今井友里子 / 解説委員
人間生活学部
食物栄養学科4年
小谷ゼミ
私の就活法●面接では素の自分を見せること。笑顔で受け応えること。



大野詩歩 / 総合デスク副編集長
人間生活学部
児童幼児教育学科3年
狩野ゼミ
私の就活法●行きたい会社を分析すること。自己PRのために自己分析すること。



上柿 茜 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科2年
島村クラス
私の就活法●好印象を与えるために日頃から笑顔を意識する。



小林いずみ / 解説委員
人間生活学部
食物栄養学科4年
志村ゼミ
私の就活法●気にしすぎず、落ち込みすぎないこと。



生島成美 / 副編集長
人間生活学部
児童幼児教育学科3年
増田ゼミ
私の就活法●気持ちと時間の切り替えをする。阿波踊りに没頭中!



大嶋理恵 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科2年
島村クラス
私の就活法●いろんな経験をして自分を見つめていくことだと思う。



小林夏美 / 解説委員
人間生活学部
食物栄養学科4年
服部ゼミ
私の就活法●面接では思ったことを言い、飾らずに素の自分に対応。



佐々木亜耶可 / 副編集長
社会情報学部
コミュニケーション学科3年
森田ゼミ
私の就活法●説明会などに積極的に参加し、気になった企業の雰囲気をつかむ。



河合咲絵 / 記者
人間生活学部
児童幼児教育学科2年
流田・狩野クラス
私の就活法●4年生の採用試験に向けて、過去問に向き合うこと。



10/22-23 第45回 桐華祭
編集部が取材します!
今年で45回目を迎える桐華祭が10月22日(土)・23日(日)に開催される。当日は研究発表・展示、ダンス発表、模擬店を実施。2日目は、カナリア、ノンスモーク、三浦翔平氏が出演するお笑いミニライブ&トークショーも開催。学生はもちろん、家族連れまで老若男女が楽しめる学園祭にぜひお越しください!
【ダンス発表】22日(土)11時〜12時
【お笑いミニライブ&トークショー】23日(日)11時開場、12時開演。チケットはチケットぴあにて購入できます(1,200円、予定枚数に達し次第販売終了)。当日券なし。
※車での来場は、遠慮ください。
◆問い合わせ先◆
【チケット】実行委員会イベント局 090-66330-17002 (月〜土曜、12時〜17時)
【学園祭】学生生活課 0480-4747-0696 (内線2600〜2699、2600)

◎平成24年度 推薦入試日程

学部・学科(募集定員)		出願期間(郵送:必着)	試験日	合格発表	出願資格
人間生活学部	幼児教育学科	60名	I期 10/28(金)~11/8(火) II期 12/5(月)~12/13(火)	11/13(日) 11/17(木) 12/18(日) 12/21(水)	高等学校を平成24年3月卒業見込みの女性で、全体の評定平均値3.3以上、専願とする。 【選抜方法】 幼児教育学科 ▶調査書・面接・作文(60分 800字) 児童教育学科、人間発達心理学科、食物栄養学科 ▶調査書・面接・小論文(60分 800字)
	児童教育学科	23名	I期 10/28(金)~11/8(火) II期 12/5(月)~12/13(火)	11/13(日) 11/17(木) 12/18(日) 12/21(水)	
	人間発達心理学科	30名	I期 10/28(金)~11/8(火) II期 12/5(月)~12/13(火)	11/13(日) 11/17(木) 12/18(日) 12/21(水)	
	食物栄養学科	40名	I期 10/28(金)~11/8(火) II期 12/5(月)~12/13(火)	11/13(日) 11/17(木) 12/18(日) 12/21(水)	
	人間福祉学科	20名	I期 10/28(金)~11/8(火) II期 12/5(月)~12/13(火)	11/13(日) 11/17(木) 12/18(日) 12/21(水)	高等学校を平成24年3月卒業見込みの女性で、専願とする。 【選抜方法】調査書・面接
	生活情報学科	30名	I期 10/28(金)~11/8(火) II期 12/5(月)~12/13(火)	11/13(日) 11/17(木) 12/18(日) 12/21(水)	
	メディアコミュニケーション学科	30名	I期 10/28(金)~11/8(火) II期 12/5(月)~12/13(火)	11/13(日) 11/17(木) 12/18(日) 12/21(水)	
短期大学部	表現文化学科	60名	I期 10/25(火)~10/31(月) II期 12/5(月)~12/13(火)	11/6(日) 11/8(火) 12/18(日) 12/21(水)	高等学校を平成24年3月卒業見込みの女性で、専願とする。 【選抜方法】調査書・面接

◎平成24年度 編入学入試日程

学部・学科(募集定員)		出願期間(郵送:必着)	試験日	合格発表	出願資格
社会情報学部	社会情報学科	3年次 5名	I期 12/5(月)~12/13(火) II期 3/1(木)~3/13(火)	12/18(日) 3/17(土)	2012年度入学生編入学試験学生募集要項でご確認いただくか、本学募集・入試センターまでお問い合わせください。 【選抜方法】 社会情報学部 ▶小論文(60分・800字)、個人面接、出願書類 人間生活学部: 児童幼児教育学科幼児教育専攻 ▶小論文(60分・800字)、個人面接、出願書類 人間福祉学科(社会福祉コース) ▶小論文(60分・800字)、個人面接、出願書類 人間発達心理学科 ▶小論文(60分・800字)、英語(60分)、個人面接、出願書類
	コミュニケーション学科	3年次 5名	I期 12/5(月)~12/13(火) II期 3/1(木)~3/13(火)	12/18(日) 3/17(土)	
人間生活学部	児童幼児教育学科 幼児教育専攻	3年次 10名	12/5(月)~12/13(火)	12/18(日) 12/21(水)	
	人間福祉学科 (社会福祉コース)	3年次 5名	I期 12/5(月)~12/13(火) II期 3/1(木)~3/13(火)	12/18(日) 3/20(火)	
	人間発達心理学科	3年次 5名	12/5(月)~12/13(火)	12/18(日) 12/21(水)	

★オープンキャンパス開催時に編入学についての個別相談を行います。相談時に学科の授業内容、単位認定、資格取得、ゼミ等について説明します。編入学を希望する方は、必ず事前にご参加ください。

◎オープンキャンパス

11月27日(日)・12月11日(日)
13:00~16:00

本学に入学を希望する方、興味をお持ちの方、ぜひご参加ください。

内容▶受験生のための在学生によるキャンパスツアー、個別説明・相談等を予定しています。
※AO入試相談・編入学相談も受け付けます。

◎桐華祭・進学相談会

10月22日(土)・23日(日)
10:00~15:00

推薦入試直前の相談会になりますので、ぜひお越しください。

受付▶募集・入試センター窓口

内容▶個別説明と相談、募集要項(入学願書)や一般入試過去問題集等の資料配布。カリキュラムや資格のこと、各入試、学生生活全般についての相談も受け付けます。予約不要。 ※AO入試相談も受け付けます。

◎入試説明会

2月23日(木)・3月8日(木)
13:00~15:00

3月入試・AO入試の受験相談を受け付けます。受験を考えている方、志望する学科の教育に興味・関心のある方のご参加をお待ちしています。 ※AO入試は右記の学科で実施します。

入試形態・実施学科▶

▶対話型・有資格者型

<人間生活学部>

人間福祉学科・生活情報学科・メディアコミュニケーション学科

<短期大学部>

表現文化学科

▶課題型

<人間生活学部>

幼児教育学科・児童教育学科・人間発達心理学科

★同窓会関係者への入試検定料優遇と免除について 同窓会関係者への入試検定料優遇および免除を以下の通り実施します。

【1】本学卒業生の紹介による検定料優遇

【大学】
対象: 大学入試センター試験利用入試を除くすべての入試

検定料: 35,000円 → 20,000円

【短期大学部】

対象: 推薦入試、一般入試、AO入試

検定料: 30,000円 → 20,000円

【2】本学園卒業生(卒業見込みを含む)の検定料免除
十文字学園女子大学、同短期大学部(十文字学園女子短期大学)、十文字高等学校卒業生(見込みを含む)の検定料は無料です。

【1】【2】で受験の場合は、本誌に同封の「卒業生紹介カード」にご記入のうえFAXにてお申し込みください。出願書類をお送りいたします。

【3】在学生の家族(姉妹、母親など)の検定料優遇

【大学】
対象: 大学入試センター試験利用入試を除くすべての入試

検定料: 35,000円 → 20,000円

【短期大学部】

対象: 推薦入試、一般入試、AO入試

検定料: 30,000円 → 20,000円

公開講座のご案内——大学開放・地域連携推進センターから

2011年度10月~2月の公開講座

下記のとおり公開講座を開催します。ふるってご参加ください。
公開講座のお知らせは、本学ホームページにも掲載しています。

■桐華祭講演会

「サッカーとスポーツの未来

~スポーツと社会のつながり~」

日時▶ 10月22日(土) 13:30~14:50

コーディネーター▶

星野敦子(大学開放・地域連携推進センター長・人間生活学部生活情報学科教授)

講師▶ 中西哲生氏(スポーツジャーナリスト)

定員▶ 200名

内容▶ 女子ワールドカップで優勝した「なでしこジャパン」など、スポーツには多くの人々に勇気や希望を与える力があります。東日本大震災が発生してから、スポーツが社会とどのようにかわるかが問われている昨今、本講演では、サッカーが社会とどのようなかわりを持っているか、この先、スポーツは社会とどのような関係を持つべきなのか、などについて紹介します。



講師の
中西哲生氏

埼玉まなびいプロジェクト協賛事業

文学科英語英文専攻公開講座

■「海外を目指せ!輝くフィールドはグローバル!」

日時▶ 12月3日(土) 13:30~15:00

コーディネーター▶

浜 由美子(短期大学部文学科英語英文専攻教授)

講師▶ 福岡賢昌(短期大学部文学科英語英文専攻専任講師)

定員▶ 100名

生活情報学科公開講座

■「生活に役立つ情報講座」(全6回)

第6回「若者の「つながり」をつくるNPOカタリバの10年—学校に社会をとどける活動とは—」

日時▶ 2月4日(土) 13:30~15:30

コーディネーター▶

亀田温子(人間生活学部生活情報学科教授)

講師▶ 三箇山優花氏(NPOカタリバ共同創設者)

定員▶ 200名

■新座市内大学公開講座(全4回)

「高齢期の心豊かな生活のために」

コーディネーター▶

片居木英人(人間生活学部人間福祉学科教授)

第1回「着物と私」

日時▶ 11月19日(土) 13:30~15:30

講師▶ シーラ クリフ(短期大学部文学科英語英文専攻准教授)

定員▶ 180名

内容▶ 外国で着物展示会を多数開催し、着物の美と日本の伝統文化を紹介し続けている着物蒐集家・研究家であるイギリス人の視点から、着物とその意味が21世紀になっていかに変化してきているかをお話します。

第2回「高齢者のためのパソコン教室」

日時▶ 11月26日(土) 13:30~15:30

講師▶ 角田真二(人間生活学部メディアコミュニケーション学科教授)

定員▶ 40名

対象▶ 高齢者。パソコン初心者も参加可能。

内容▶ 高齢者にコンピュータを教えるボランティアをしたい、コンピュータを使ってボランティアをしたい、認知症の予防等にしたい、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

第3回「楽しく食べて、いきいき健康」

日時▶ 12月10日(土) 13:30~15:30

講師▶ 服部富子(人間生活学部食物栄養学科教授)、木村靖子(人間生活学部食物栄養学科専任講師)

定員▶ 40名

内容▶ 献立を考えて食事づくりをすることは、手を動かすだけでなく足腰をきたえ、脳の活性化にもつながります。毎日をいきいきと過ごせるように食生活を考え、実際に料理

をつくり、楽しく食べるための調理教室です。

費用▶ 500円(調理実習材料費)、20円(保険代)

持ち物▶ エプロン、三角巾、上履き

第4回「高齢期の住まい保障と福祉文化」

日時▶ 12月17日(土) 13:30~15:30

講師▶ 新井幸恵(人間生活学部人間福祉学科教授)、安岡芙美子(人間生活学部人間福祉学科教授)

定員▶ 180名

内容▶ 「住み慣れた我が家最後まで暮らしたい」、これが、多くの高齢者の希望です。しかし、年をとるほどに、居住移動が多くなることも事実です。高齢期の住まいをどう選択するか、ご一緒に考えてみましょう。

予約方法/お問い合わせ先

◇桐華祭講演会・文学科英語英文専攻公開講座・生活情報学科公開講座

各講座の1カ月前より、電話・メール・FAXのいずれかで、① 受講希望の講座名・日にち、② 氏名(フリガナ)、③ 電話番号、④ 講座をお知りになった媒体、をご記入のうえ、お申し込みください。

【お申し込み・お問い合わせ先】

大学開放・地域連携推進センター
TEL: 048-477-0958 (直通)

E-mail: ext@jumonji-u.ac.jp

FAX: 048-477-0764

※メールでお申し込みの場合は、「受付完了」の返信メールが届いた時点で「受付完了」となります。

◇新座市内大学講座

往復ハガキに① 大学名、② 講座名、③ 住所、④ 氏名(フリガナ)、⑤ 年齢、⑥ 電話番号、⑦ 職業、を明記し、下記へお申し込みください。お申し込み締切: 10月21日(金)(消印有効)
※応募多数の場合抽選、結果は11月4日(金)頃通知

受講料: 無料(12月10日(土)第3回新座市内大学公開講座を除く)。

会場: 十文字学園女子大学

【お申し込み・お問い合わせ先】

新座市教育委員会 生涯学習課

〒352-8623 埼玉県新座市野火止1-1-1

TEL: 048-477-1111 (内線1834)